

平成29年度 関西創価高等学校 学校評価

1.めざす学校像

基本方針	〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の資質を育む教育活動の実践 〔Ⅱ〕「可能性」の育成のために 〔Ⅲ〕「心」の育成のために
学校運営	文科省SGH(スーパーグローバルハイスクール)校として取り組む5年間のうち3年目に入る本年は、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との本校の最も大切な平和の信条から出発した新たな「世界市民教育プログラム」を構築してまいりたい。 同時に、その主体者たる生徒自身の限らない可能性を開き、世界平和を担う「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育てていく。以上の理由から、本年度基本方針を上記のように定め、全教職員が心を合わせ全力で取り組んでまいりたい。また「連携」をキーワードとし、「高大連携」「小中高連携」「保護者連携」「教員間連携」「SGH校連携」を念頭に置き、以下の目標を達成していく。

2. 中期的目標

〔1〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために

1. 主体的対話的深い学びが授業の中に取り込まれている授業数の推進
2. 探究型総合学習GRITがよかったと述べる生徒の数の増進
3. 英語力の強化と英検受検の成績向上
4. ICT教育の充実。1人1台のタブレットの実現

〔2〕「可能性」の育成のために

1. 2時間以上、家庭学習している生徒の増進。
2. 学校設定科目SPへの参加生徒数の増進
3. スタディサプリ到達度テストを活用し、成績アップさせた生徒の増進
4. 学年、進路指導部主催のキャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進
5. 名作・長編の読書運動に年間通して挑戦したという生徒数の増進

〔3〕「心」の育成のために

1. 授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進

【自己アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[平成30年2月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際課題を探究する中で留学希望生徒が増えた。 ・GRITの学習内容に満足している。 ・可能性が広がる授業が受けれた。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の取り組みに大変に感謝している。 ・日々の学習にも挑戦して欲しい。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の喜ぶ姿がやる気を生む ・新しい取り組みに挑戦できた。 ・生徒の可能性を広げる取り組みができた。 <p>【分析】</p> <p>SGHの取り組みは大変だが確実に生徒が力をつけている。地域を巻き込み更に前進したい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SGHを通して身につけた力を地域に還元すべき、地域を大切にすることが大事だ。 ・3月下旬に桜まつりをオープンキャンパスとして実施。せっかくの機会なので、地域にもお知らせをし、自由に参加できる体制を。 ・地元交野への教育成果は、「蛸」「アースカム」「平和活動」に広がりをはじめているが、今後は防災の面でも検討を。 ・「TRY人の里 交野から…」のテーマでSGHの取り組みを行っている。交野に様々な取り組みを発信し、核廃絶署名も自校だけでなく周辺校も巻き込んで実施を。

【学校目標の主な総括】

	今年度の重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価												
「主体的・対話的の授業の取組で深い学び」	<p>各授業において、「主体的・対話的で深い学びの授業(アクティブラーニング)」に取り組む。</p> <p>70%以上の先生方の実施を目標とする。</p> <p>教員の授業力向上を目指す。</p>	<p>オープンクラスウィークを設定し授業実践例の相互交流を行った。</p> <p>校内外での研修の参加実施。</p> <p>授業公開等での啓発。</p>	<p>評価⇒2017年度は74%の授業で「主体的対話的深い学び」に取り組んでいるので、評価A。</p>	<p>改善点⇒更に授業公開等を推進し啓発の場を作る。また、校外の研修に参加啓蒙する。</p> <p>明年度は8割以上の実施を目標とする。</p>												
「GRIT」の学習業	<p>SGHのメインプログラムである探究型総合学習「GRIT」の充実を目指す。</p> <p>1年次、探究基礎を学び、2年次、発表力を培い、3年次、国際課題解決力を育む。</p> <p>上記の取組を通し、世界の諸問題に関心を持ち探究テーマを策定。</p> <p>世界の諸問題の関心度80%を目標とする。</p>	<p>1年次、UPクラスの参加啓蒙し、世界の諸問題に関心を持つ生徒増やし、GRIT等で学年全体で探究基礎を学ぶ。</p> <p>2年次、大学の先生の前でプレゼンテーションし、発表力を磨く。また、下級生にポスターセッションを通し、全員が発表力をつける。</p> <p>3年次、学年全員で模擬国連を開催し、全員が各国の大使となり自国の課題解決に向けて他国の大使と交渉し、1つの結論を導く取組をした。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>世界の諸問題に関心がある</td> <td>68%</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>SDGsやMDGsを知っている</td> <td>9%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>世界の食糧事情に関心がある</td> <td>42%</td> <td>87%</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価⇒2017年度目標を上回った。SDGsなどは、目標値に下回ったが知るだけでなく学び考え行動に移せたことが大きな進歩と考え、評価A。</p>		2016年度	2017年度	世界の諸問題に関心がある	68%	82%	SDGsやMDGsを知っている	9%	60%	世界の食糧事情に関心がある	42%	87%	<p>改善点⇒関心度はほぼ達成できたので、授業を通して生徒が国際課題の探究、解決力の育成増進に力点を置く。</p>
	2016年度	2017年度														
世界の諸問題に関心がある	68%	82%														
SDGsやMDGsを知っている	9%	60%														
世界の食糧事情に関心がある	42%	87%														
英検受検力の強化と向上	<p>国際課題解決に必要な力として、英語力の強化に取り組む、成績向上を目指す。</p> <p>CEFR(B1以上)の力をつけた生徒を65%以上にする。</p>	<p>授業でのチームティーチングの実施また少人数編成での実施。</p> <p>放課後の英検等の対策の実施。</p> <p>各授業において英検を推進。</p>	<p>評価⇒2017年度は、61%と目標値を少し下回ったが、70%以上の生徒が挑戦しているので、評価B。</p>	<p>改善点⇒高校入学の段階から英検を推進していく。</p> <p>明年度の目標は70%とする。</p>												
キャリア教育の充実	<p>学年、進路指導部主催のキャリア教育を更に充実させる。</p> <p>①キャリア指導アドバイザーの設置。</p> <p>②創価大学創価女子短期大学への推薦による進学と国公立大学、難関私立大学への進学指導を充実させる。</p> <p>③海外大学への進学を充実させる。</p> <p>国公立大学、難関私学大学の50名以上の合格者を目指す。</p> <p>海外の大学進学をアメリカ創価大学と他大学も含めて10名以上を目標とする。</p>	<p>入学時にキャリアデザインのセミナーを受講し、キャリアデザインマップを作成する。学年の終わりに振り返りをする。</p> <p>海外大学、大学院を卒業した英語科スタッフがサポートしアメリカ創価大学だけでなく海外大学進学に挑戦。</p>	<p>評価⇒2017年度は、53名が国公立大学難関私立大学に合格。13名が海外大学に進学。評価A。</p>	<p>改善点⇒海外大学進学の指導体制は確立しているので今後も継続する。</p> <p>明年度は10名以上とする</p>												
地域と連携	<p>自然・環境保護とその啓発を通じて地域に貢献する。</p> <p>近隣校との連携。</p> <p>地域の行事に参加。</p> <p>行政の長との懇談。</p>	<p>蛍鑑賞会実施、「環境フェスタIN交野」においてISSアースカムの発表、交野市役所を訪問し、交野市長並びに交野教育長と「交野市長と語る会」を開催し平和活動を推進した。</p>	<p>評価⇒左記の各行事に参加し、地域と連携がとれた。評価A。</p>	<p>改善点⇒他校を巻きこみたい。</p> <p>目標⇒明年度は具体的に他校を巻き込むことを目標とする。</p>												
生徒の可能性を開く	<p>Soka Progress classへの参加。</p> <p>スタディサプリの活用とともに日々の学習。家庭学習を啓発増進。</p> <p>1日の家庭学習2時間以上の生徒の50%を目標とする。</p>	<p>放課後のアドバンスやベーシックの学習、キャリア教育、またスタディサプリを学校導入し日々の学習の大切さ機会をつくり啓発した。</p>	<p>評価⇒平日2時間以上の家庭学習の生徒は35%で目標に届かず、評価C。</p>	<p>改善点⇒部活動の時間検討や通学中の学習など改善啓発する。</p> <p>明年度も1日2時間以上の家庭学習を50%を目標とする。</p>												

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	達成度評価	評価平均値	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動・実践における重点項目	〔1〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために	1. 主体的対話的深い学びが授業の中に取り込まれている授業数の推進	全教員を対象にしたのアクティブラーニング研修を実施 授業・GRITにおけるアクティブラーニングの導入と実践	A	3.4	アクティブラーニングの授業導入が、昨年以上に進んだ。研修会を実施し、教員の意識の啓発を図った。 →校内研修の充実。校外での勉強会にも積極的に教員を派遣。さらに高いレベルを目指す。
		2. 探究型総合学習GRITがよくなったと述べる生徒の数の増進	校内の環境フィールドワーク／虫の学習／アースカムプロジェクト体験 貿易ゲーム／持続可能な開発目標(SDGs)学習 人権学習／世界人権宣言学習 核軍縮交渉シミュレーション グループでのまとめ・プレゼンテーション	A	3.7	SGHの取り組みとして、全校生徒で実施するGRITの学習やグローバル・シナジーセッションを通して、世界市民として必要な地球的課題探究への意識・関心が高まり定着した。 →教員自身の研鑽を継続。 さらに視野を広げ、これまでにない分野にも目を向けたい。
		3. 英語力の強化と英検受験の成績向上	TOEIC講座の充実／検定試験受験補助 創大留学生を招いてのグローバル・キャンプの実施 多読教材の整備・拡充と活用 英語暗唱弁論大会・英単語コンテストの実施 各種語学コンテストへの出場 SGH海外フィールドワークを実施	A	3.7	グローバルキャンプやSUA首脳との懇談会、SUA留学生との交流等、英語学習への動機づけの機会を多くもつことができた。 英語検定試験受験への補助によって受検者が増加した。 これに伴い、英検合格者数も飛躍的に増加し、高校3年卒業時に学年の65%が英検2級レベルの力をつける目標は、更に努力が必要である。 ※TOEICでのスコアも含む。 第2回海外フィールドワークにより、さらに語学に対する関心が高まった。 →授業の充実とともに対策講座の継続。各級の合格者を増やす努力をさらに重ねる。
		4. ICT教育の充実。1人1台のタブレットの実現	情報リテラシー教育の実施 教師・生徒のIpad活用の実施と促進 先行して高校2年生全員にタブレットを貸与、完全実施。	A	3.7	ICT委員会を設置し、ICT導入について積極的に取組、全校生徒全員にタブレットを貸与を実現した。 →タブレットを活用した授業の展開。授業に役立つアプリの活用・研究。家庭学習への活用。使用上のマナーの徹底。
〔2〕「可能性」の育成のために		1. 2時間以上、家庭学習している生徒の増進。	SPのBasicコース開講 各教科における日常的問題集の活用 スタディサプリの導入。授業・家庭学習での活用。	C	2.5	英語科・数学科をはじめとする教科できめ細かい指導を行っている成果が徐々に出てきている。放課後のSPをきっかけに家庭での学習に取り組む生徒が増えてきた。まだまだ努力が必要だが、スタディサプリの導入により、タブレットを活用した反転学習の拡充に取り組む。 →スタディサプリの活用。 反転学習の具体的な実践。
		2. 学校設定科目SPへの参加生徒数の増進	SPクラス(Advanced Math・Basic Math)の実施 SPクラス(Advanced English・SUA English)の実施 ラーニングクラスターの充実・SGH海外フィールドワークの実施	C	2.7	放課後に実施したSPクラス(生徒のニーズに応じた講座)で学力とともに進学実績も向上した。 UPクラスを開講したことで、大学レベルの学問にふれ、学習に対する意識が大いに向上した。 →放課後に実施することで、リーダー育成講座をはじめとする諸行事と重なり、生徒の活動に影響が出ている。 新カリキュラムの編成とも関わる問題。講座と放課後の諸活動の整理ができつつある。 学年を絞ることにより、参加者数の増加し安定した。
		3. スタディサプリ到達度テストを活用し、成績アップさせた生徒の増進	1年次から3年次の夏まで、6回の学力到達度テストを実施 到達度テスト後、結果に基づき苦手克服課題を個人別に配信 2年次夏と冬に創大推薦模擬試験等を実施	C	2.7	スタディサプリ(リクルート)の実施により、基礎学力の抜け漏れを個別に把握が可能となり、より効果的な学習指導ができた。実際にテストの点数・学習時間ともに増えている傾向。 →抜け漏れの学習指導を徹底し、継続する必要がある。
		4. 学年、進路指導部主催のキャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進	キャリアガイダンスの実施(1・2年次) 適正診断の実施(1年次) 創大研修での講義受講(2年次) 弁護士による人権講座を実施	B	2.9	今年度は、創価大学研修でのキャリアデザイン講座を2年生が受講したことに加え、創価大学キャリアセンターより羽賀文湖さんを学校にお招きし、入学時に新入生対象のキャリアデザインの講座を開催し、キャリアデザインマップの作成に取り組めた。また、学年の終わりにマップの更新ができた。 →志望校・志望学部を選択や将来の職業選択がより具体化するよう、努力を続けたい。
		5. 名作・長編の読書運動に年間通して挑戦したという生徒数の増進	朝読書の実施と充実 「図書館に行こうDay」を毎月開催 「Book-Navi Day」での教員からの良書推進 ビブリオバトルによる生徒参加型の読書推進の実施 各種読書コンクールへの応募推進	C	2.5	「Book-Navi Day」で教員が推薦図書を紹介をしていることや図書館のさまざまな工夫で図書館利用の頻度は高まっている。 ビブリオバトルなど新しい生徒主体の読書推進活動も定着。 読書感想文コンクールをはじめ、各種コンクールで多数の入賞者を出すことができた。 →成果も多いが、良書に親しむ生徒の率がまだまだ低いと感じる。しっかりとしたデータ収集に努め、具体的な対策を立てたい。
ための教育力向上の取り組み	〔3〕「心」の育成のために	1. 授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進	1・2学期に授業公開週間を設ける。 各学期に保護者対象の授業参観を実施。	B	3	毎年、全教科が目標・取り組みなどのシラバスを作成し、年間計画を立て、授業力アップに取り組んできた。 6月、11月に授業公開週間を設け、全校で授業公開と授業参観に取り組んだ。 各教科において授業公開の年間計画を立て、全員が一年に一回は授業公開をできるように取り組んでいる。 学期に1回(年に3回)、保護者対象の授業公開を行い、アンケート記入をしていただき、各教員にフィードバックしている。